業務棚卸表（事後評価表）

A表

年度	平成21年度

基本目的　1　市民が快適に暮らせるまちになる

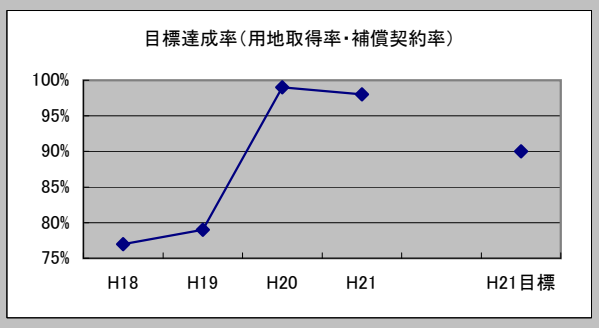
行動目標　1－1　快適に暮らせる生活基盤が整う　（所管課名　都市整備部用地課）

任務目的	都市施設等の用地を効率的に確保する	達成度	☆☆☆☆

任務目的の成果・活動指標の推移

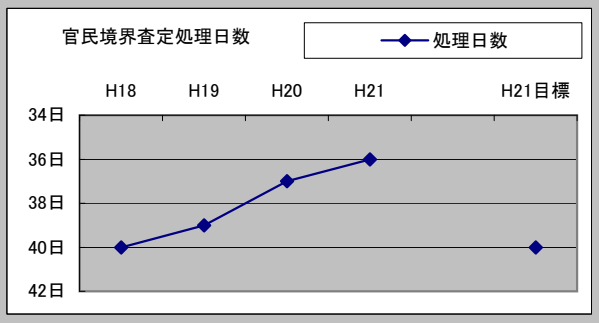
目標達成率（用地取得率・補償契約率）

H18実績	77%
H19実績	79%
H20実績	99%
H21実績	98%
H21目標	90%



官民境界査定処理日数（処理件数）

H18実績	40日（1,066件）
H19実績	39日（1,045件）
H20実績	37日（950件）
H21実績	36日（641件）
H21目標	40日（1,100件）



指標の説明

都市施設等の用地を効率的に確保する指標として、市民等に直接的に関与すること、わかりやすいこと等を考慮し、代表的な指標として、目標達成率（用地取得率・補償契約率）及び官民境界査定処理日数（申請してからの待ち日数）を掲げた。

○　任務目的に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成21年度実績

○目標達成率については、移転先用地の確保に時間を要したため、前年度に比べわずかに減少したものの、高い達成率を上げることができた。
○官民境界査定処理日数については、前年度に引き続き、大型プロジェクト(北勢バイパス・新名神高速道路)の広範囲な境界立会いが実施され、それに係る事前調査並びに立会い業務に時間を要したが、境界査定システムを導入し、年度末に一部システム稼動を行った。
○これらの取り組みの結果、都市施設等の用地を効率的に確保することができた。

平成22年度見通し

○新規事業は、事業縮減により減少傾向であるが、継続事業である取得案件の交渉を進め、主要事業の進捗を確実に図る。
○個人による境界立会申請件数は、ここ3年間の動向により前年度を下回ると推測されるが、昨年に引き続き大型プロジェクト(北勢バイパス・新名神高速道路)の境界立会いや、前年度実施した同大型プロジェクトの境界確認書の締結も予定されおり、処理業務量は相当量と見込まれる。

これからの課題、施策等展開の方向性

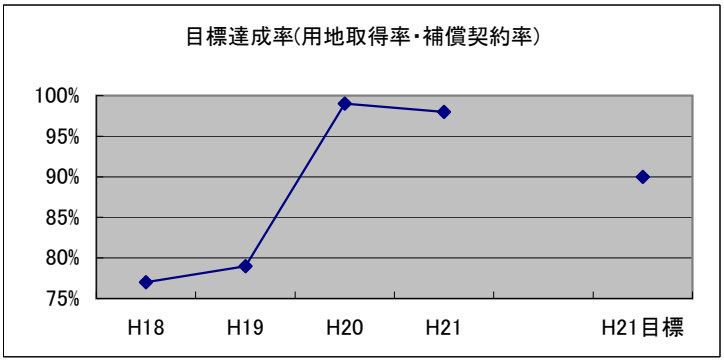
○用地交渉に時間を要している案件については、粘り強く地権者との交渉を進めると共に、法的手段(土地収用法)による手続も視野に入れ、効率的な用地取得を目指す。
○本年度から、本格的な稼動となる境界査定システムにより、処理日数の短縮を図る。
○境界査定業務の一つである、記録業務の外部委託を引き続き行い、業務委託の拡大を図る。

業務棚卸表（事後評価表）

B表

年度	平成21年度

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
1	用地の取得及び処分を行う	目標達成率（用地取得率・補償契約率）	H18実績	77%	☆☆☆
			H19実績	79%	
			H20実績	99%	
			H21実績	98%	
			H21目標	90%	



基本的な手段に対する評価

平成21年度実績

○目標達成率（用地取得率・補償契約率）については、移転先用地の確保に時間を要したため、前年度に比べわずかに減少したものの、高い達成率を上げることができた。

平成22年度見通し

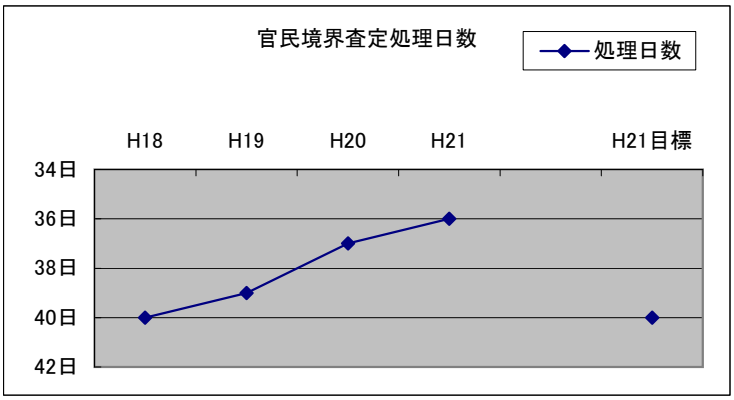
○事業縮減により大規模な新規事業は減少し、小規模な新規事業が増加傾向であるため、単年度での用地取得ができるよう努める。
○昨年度からの継続事業で契約に至っていない案件については、粘り強く地権者との交渉を進め、理解を得て契約できるよう努力する。

事業名	H20決算	H21予算	H21決算	決算差引
未登記道路調査業務	22,289	24,022	23,491	1,202
代替地等売却事業	2,765	2,114	2,239	△ 526
法定外公共物等特定事業費	3,742	2,230	1,635	△ 2,107

これからの課題、事業展開の方向性

○用地交渉に時間を要している案件については、粘り強く地権者との交渉を進めると共に、土地収用法による手続も視野に入れ、効率的な用地取得を目指す。

目的達成に必要な手段		指標	年度	実績／目標	達成度
2	官民境界を確認し、土地の有効活用を図る	官民境界査定処理日数（処理件数）	H18実績	40日（1,066件）	☆☆☆☆
			H19実績	39日（1,045件）	
			H20実績	37日（950件）	
			H21実績	36日（641件）	
			H21目標	40日（1,100件）	



基本的な手段に対する評価

平成21年度実績

○個人の立会件数は減少したものの、前年度に引き続き、大型プロジェクト(北勢バイパス・新名神高速道路)の広範囲な境界立会いが実施され、それに係る事前調査並びに立会い業務に時間を要したが、境界査定システムを導入し、年度末に一部システム稼動を行った。
○記録業務の外部委託については、単価契約による業務委託を行い、事務の効率化を図った。

平成22年度見通し

○個人による境界立会申請件数は、ここ3年間の動向により前年度を下回ると推測されるが、昨年に引き続き大型プロジェクト(北勢バイパス・新名神高速道路)の境界立会いや、前年度に行われた同大型プロジェクトの境界確認書の締結も予定されており、処理業務量は引き続き相当量見込まれる。
○境界査定管理システムに搭載する資料の整備を引き続き行なう。

事業名	H20決算	H21予算	H21決算	決算差引
境界査定業務	20,135	50,240	41,525	21,390
（一般経費）	20,135	48,341	39,803	19,668
（緊急雇用創出事業費）	0	1,899	1,722	1,722

これからの課題、事業展開の方向性

○本年度から、本格的な稼動となる境界査定システムにより、処理日数の短縮を図る。
○境界査定業務の一つである、記録業務の外部委託を引き続き行い、業務委託の拡大を図る。